

おわりに

令和2年度・3年度、この2年間で学校におけるICT環境は激変しました。新型コロナウイルス感染症の流行により、行事は延期や中止が相次ぎ、授業も制限のかかった中での実施でした。新学習指導要領で重視されている「主体的・対話的で深い学び」のうち、「対話」に関しては、音声としては十分にできない状態が続きました。

そのような中で、2023年度に1人1台の学習用端末を整備する計画であった、教育のICT化に向けた「環境整備5か年計画」が前倒しで2020年度中の完了を目指すことになりました。この通知を受けて、市町の教育委員会では、学習用端末の整備が急ピッチで行われました。新型コロナウイルス感染拡大によって臨時休校が長期化したり、校内での感染者が判明したために臨時休校や学級閉鎖を余儀なくされたりと、教育課程の実施にも支障が生じる恐れがあったため、急務であったとはいえ、学校現場では混乱を招いていました。自治体により整備の時間差が生じるとともに、県内でもOSはさまざまなものが導入されました。また、端末が整備されましたが、授業でどのように活用すればよいか、児童・生徒にどう活用させればよいかなど、課題は山積していました。ちょうど、コンピュータ教室にコンピュータが整備されたときや各教室にコンピュータが整備されたときと同じような状況になっていると思わざるを得ませんでした。

そこで本委員会では、これまでの活動と実践データを活用し、このような事態でもできることの実践と情報を発信いたしました。昨年は中止した夏季研修会も、オンラインで実施し、そのノウハウを以後の研修会に提供することができました。また、毎年行っている「情報教育に関する実態調査」では、整備された端末の種別や通信環境、授業での活用状況などについて県下の状況を把握することができました。これらのデータを基に、来年度の研修の方向性も検討していく予定です。

このように新型コロナウイルス感染症によってもたらされた急激な学校環境の変化に

対して、本委員会がもつ役割は大変重要であると思われます。1人1台端末の学習環境が整備された「令和の時代のスタンダード」をより一層定着させるため、ICT機器活用が目的ではなく、手段であり、日常的な学習用具の一つとして活用されるよう、今後も微力ながら愛媛の視聴覚・情報教育の推進に貢献していきたいと思ひます。

最後になりましたが、本年そして一昨年の活動に対する皆様のご協力に深く感謝いたしますとともに、今後の愛媛の視聴覚・情報教育推進のために、共に取り組んでいただくことを重ねてお願い申し上げます。

令和4年3月

愛媛県教育研究協議会視聴覚・情報教育委員会